

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日: 2022年9月19日

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部／経営学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学ロサンゼルス校 現地言語: University of California, Los Angeles
留学期間	2022年6月～2022年9月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2022年9月10日
明治大学卒業予定年	2025年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月下旬～12月上旬 2学期:1月上旬～3月中旬 3学期:3月下旬～6月上旬 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	45,428人(2018年時点)
創立年	1919年

留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	円	備考
授業料	6,874	984,900円	
宿舍費	4,976	713,000円	週14食のミールプランを含む
食費	800	114,600円	ミールプラン以外の外食代
図書費	38	5,500円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		円	元々契約している Softbank のアメリカ放題というサービスを利用した
現地交通費	300	43,000円	キャンパス外での交通費(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	1,396	200,000円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	508	72,800円	形態:UCLA+明大サポート
渡航旅費	1,635	234,200円	
ビザ申請費	160	22,900円	
雑費	349	50,000円	
その他	845	120,800円	入寮前の前泊代
その他		円	
合計	17,881	2,561,700円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地:羽田 目的地:ロサンゼルス 経由地: 復路 出発地:ロサンゼルス 目的地:羽田 経由地:
渡航費用
①往復チケットを購入した場合 航空会社:全日空 料金:234,200 円 ②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:ANA) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Centennial Hall) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 3)
3)共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
UCLA Housing
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
今回サマーセッションで提供されたオプションの中で唯一部屋に空調がついていたのでこの寮を選んだ。比較的新しく清潔で、エアコンも入/切が自由にでき、概ね快適だった。エアコンがない寮に遊びに行った際は、気温にもよるがとんでもない暑さのためドアを解放したままの部屋もあったので、暑さに耐性のない人は空調がついている寮を選ぶことをお勧めする。しかし、同居人との室温の好みが変わらず、部屋が寒すぎて寝れない人もいたため、服や毛布などで調整が必要な場合もある。食事においては、ダイニングホール以外にもミールチケットが使えるレストランやカフェがあるため、様々な食事場所を上手く使い回すことで飽きを防いでいた。
現地情報
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所:学内の隔離施設)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人:)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?
たびレジに登録していたので、外務省領事局から度々情報が届くようになっていた。また、留学仲間から治安の悪い地域を教えられて、そこに行くことはもちろん經由することもなるべく避けた。犯罪に巻き込まれたことはない。
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
キャンパス内の施設はほぼ全域で大学の WiFi が使えるようになっていたので、インターネット接続において困ることは特になかった。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
日本でいくらか換金していった他に、クレジットカードやデビットカードでほとんどを支払っていた。
6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。
調達できないものは特にないが、文房具や爪切りなどは日本の方が使いやすいと思う。
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)
学校指定のサイトにて銀行振り込みで支払った。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
17 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? なし		
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
American Culture through Film		映画で見るアメリカ文化
科目設置学部・研究科	English as A Second Language	
履修期間	6/20-7/29	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)	
授業時間数	1週間に 150 分が 2 回	
担当教授	Douglass, M.C.	
授業内容	毎週 1 本の映画を観ながら、映画内のシーンや表現について、クラスメイトと議論を交わしたり、グループで出した結論を発表したりして意見交換を交わした。ESL の授業なので、難しい単語の意味の確認や音読練習なども時折挟まれる。	
試験・課題など	毎週指定の映画を 1 本授業時間外に観る。また、それに伴い映画内の印象的なシーンや発言を選んで引用し、自らの解釈などをワークシートに書く。フィルムレビューと言う形で各映画のレポートも課される。最終課題として、グループでコースを通して扱った映画を 1 本選び、架空で創作した続きのシーンや、問題があると考えたシーンを演じて発表する。試験はない。	
感想を自由記入	ESL の授業と言うだけあり、もちろんネイティブの生徒はいなかったが、指定の映画すべてが障がいに関連していて、新しいものから昔のものまでであった。英語やアメリカ文化はもちろんだが、映画で描かれる障がい者の考えや言動について、クラスメイトの意見も交えながら様々考えさせられた。同時に、収録された映画の内容すべてが正しいと鵜呑みしてはいけないということにも気づかされた。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Disney Feature: Then and Now		ディズニー映画 過去と現在
科目設置学部・研究科	Film and Television	
履修期間	6/20-7/29	
単位数	5	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)	
授業時間数	1週間に 170 分が 2 回	
担当教授	Gladstone, F.B.	
授業内容	ディズニーの長編映画を毎週数多く扱い、大事なシーンだけ切り抜いて編集された動画を見ながら、先生が独自の視点から解釈や映像技法などを解説していく。クラスメイトが授業中に自由に発言する形式をとっている。	
試験・課題など	期末レポートに、ディズニーやピクサーの長編映画の一つを選び、映像技法や時代背景など様々な観点から自らの考察を書く。中間に期末レポートの骨子を先生に提案するため、原案を簡単にレポートにまとめる。試験はない。	
感想を自由記入	この授業では、先生が編集した動画と解説をひたすら見聞きするという講義だった。ノンネイティブ向けの授業ではないので、先生が授業中に言ったことや他の生徒の発言、そして当然映画に字幕はついていないので、それらを完全に理解するのに苦しんだ。しかし、世界中から愛されるディズニー映画の不朽の名作が、キャッチーなキャラクターやストーリーだけでなく、時代ごとに移り変わる映像技術や、映画が社会に及ぼした影響まで、多くの観点から細かく研究するため、ただ映画を観ているだけではわからない発券や気づきがたくさんあって興味深い授業だった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Principles of Oral Communication		口語的コミュニケーションの原理	
科目設置学部・研究科	Communication		
履修期間	8/1-9/9		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に125分が2回		
担当教授	Hurwitz, B.S.		
授業内容	コースを通して5分程度のスピーチを3回発表する。発表後に先生や複数の生徒からフィードバックをもらう。最終スピーチではそれ以外は、聴衆の前でいかに良い発表ができるかについて、先生が用意した様々な人々によるスピーチの動画を見ながら学んだり、お題を出されて他の生徒とディスカッションした。		
試験・課題など	試験はない。毎回リーディングの課題が課される。		
感想を自由記入	Communication のクラスなので、クラスメイトはもちろん英語が十分できる人ばかりで、自分の英語力と照らし合わせて受講前はかなり不安があった。実際、英語でのスピーチやプレゼンに慣れておらず、ナチュラルな英語に聞こえるように話すことに必死で、自分のスピーチにあまり自身や手ごたえはなかったが、各回のスピーチの後に先生から丁寧なフィードバックをいただき、次の発表に活かすことができた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Integrated Marketing Communications		統合マーケティングコミュニケーション	
科目設置学部・研究科	Communication		
履修期間	8/1-9/9		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に125分が2回		
担当教授	Feramisico, C.		
授業内容	ビジネスの4Pのうち「プロモーション」に焦点を当て、マーケティング、広告、消費者行動をを探求し、マーケティングコミュニケーション戦略の立案と実行のための基礎を学ぶ。時々、授業の終わり際にお題を与えられて少人数でディスカッションをする機会もあった。		
試験・課題など	コースを通して、自分が考える架空のサービスや商品を決め、実際に戦略や価格などを具体的に決めながら、ビジネスアイデアを完成させる課題が毎回出される。試験はない。		
感想を自由記入	ディスカッションがたびたびあるので、比較的友達を作りやすい授業である。自分が将来やりたいことにダイレクトに関連する授業内容だったので、ビジネスやマネジメントだけでなくマーケティングやプロモーションの分野において細かく掘り下げて学ぶことができ、コースを通してとても興味深かった。また、自分がゼロから考えたまったく新しいビジネスについて、戦略を立てたりプレスリリースを書いたりして、授業が進むごとにどんどんリアルに具体化させていく課題は今まで経験したことがなく、とても斬新で実践的なものだった。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input checked="" type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	TOEFL iBT 受験
	8月～9月	
	10月～12月	留学アドバイザーの先輩にカウンセリング相談 明治学内プログラム出願
留学/帰国年	1月～3月	合格通知 サマーセッション出願手続き
	4月～7月	英会話アプリにてスピーキング力強化 F-1ビザ取得
	8月～9月	セッション終了・帰国
	10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

元々英語に触れるのが好きで、特に日本とは異なる海外の文化について知るのが好きだった。そこで、いつか実際に海外に留学して、自分で今まで培った英語を使いながら異文化について学ぶ経験をしてみたいと思っていた。UCLAを選んだ理由は、世界トップクラスの大学の質が高くハイレベルな授業を正規生として受講できるからである。全米国公立大学で1位を誇る超名門の学校として、アメリカはもちろん国外からでも人気のある学校である。カルフォルニア大学の中では敷地が最も狭いにもかかわらず、校舎や寮、学生が活動する施設が十分すぎるほど充実しているという情報も事前の調査で知っていた。また、キャンパスからロサンゼルスの数多く並ぶ観光地までもアクセスが良く、勉強以外の活動も豊富にできると考えた。サマーセッション中ではあるが本校生にとっては夏休みなので、休業中の施設が多かったにもかかわらず、キャンパス内は毎日たくさんの生徒で活気づいていた。敷地が広く施設のバラエティにも富んでいるので、立派な図書館や芝生の上、コーヒーハウスや道のベンチなど、学生がみな思い思いの場所でくつろいだり勉強をしているのが、日本の大学とは大きく違う風景であった。私が住んでいた寮はアジアやヨーロッパの人々に人気だった。特に前期は同じ寮に住む明治生と香港からの学生を中心に仲良くなり、一部屋に集まって楽しく談笑することが多かった。寮や各フロアごとのイベントがある時期もあった。しかしあまり盛んとは言えなかったのでより多くの他国の学生と寮内で知り合うのは難しかった。勉強は各フロアにあった小さいラウンジの他に、隣の建物に広く快適な2フロアのラウンジが別であったので、そちらを夜遅くまで利用する学生が多かった。前述の通り、前期は同じ寮内の明治の生徒と香港の生徒複数人で仲良くなり、何か所か遊びに行った。ラウンジで日本語を話しているときに、日本語を勉強している韓国の学生に話しかけられ、友達になった。これ以外にも、日本語を学んでいる、もしくは学びたいという外国の学生が意外に多く、街で合う人も親日の人々が多いことに驚きつつ、ありがたく感じ嬉しかった。ESLの授業で一緒だった他大の日本人学生とも交流を深め、様々な場所に遊びに行った他、彼らの留学全般に対しての考え方や態度に刺激を受けることもあった。後期は、マーケティングの授業でクラスメイトだった台湾とフランスの生徒と仲良くなった。後期の方が寮やキャンパス内のレクリエーションや交流機会が少なかったように感じる。ロサンゼルスには美術館やビーチ、ショッピングモールにテーマパークなど、本当にたくさんの観光地が充実しているので、クラスメイトやルームメイトなどと週3回の休日を利用して様々なスポットに遊びに行った。キャンパス周辺のウェストウッドはとても治安のよい地域で、大型スーパーや街の飲食店、カフェなどが立ち並んでいたため、授業後などに買い出しや散策、夕飯を食べに繰り出すことも多かった。

生活面ではあまり困ることはなく、寮のダイニングホールの食事に飽きを感じた時に、お金を掛けずに他の食事オプションを見つけるのが難しかった。また、今年(2022年)は円安がかなり進んでおり、現地の物価も高騰していたため、例年に比べ様々な点においてコストがかなりかさんでしまったと思う。最も困難だったのは英語力である。日本に居る時はスピーキング力だけに自信がなかったが、現地で生活している際はリスニングにも本当に苦労した。当たり前だが様々な国籍の人々が混在しているので、アジア圏の英語は比較的聞き取りやすかった。が、ネイティブはもちろん、アメリカ国内にも多様なアクセントや訛りを伴う英語が多く、2度以上聞き返してしまうことが多かった。出発前に練習していたのはきれいで聞き取りやすいアナウンスの英語だったため、もっと自分が得意ではないアクセントの会話を聞き込んでおくべきであった。4つの授業のうち、課題がほぼない教科もあれば、毎週みっちり出る教科もあった。しかし、もちろん怠けている人やてきとうに済ませようとする人はほとんどおらず、クラスメイトの大半は授業や課題に対して真面目に真摯に取り組んでいた。クラスメイトが積極的に質問や発言をしたり、それをきっかけに授業中に自然と議論が生まれることもあった。そうした姿に刺激を受けたものの、授業中の発言は私にとってまだまだハードルが高かったため、オフィスアワーを活用して授業内で理解しきれなかった内容を質問した。また、ライティングセンターなどを利用してレポートの添削を行ってもらったこともあった。

実際に渡航する前までは、留学とは本当にハードルが高いもので、自分のような人間に成し遂げられるのか、明治大学の代表として行っていいものなのかなど常に不安でいっぱいだった。実際、留学開始後しばらくは自分の英語に自信もなかったし具体的に何をしたいのかもわからず、ただ日常の会話に着いて行くことや授業と課題をこなすことに精一杯であった。しかし、周りの仲間が意欲的に行動している姿に刺激を受け、自分にも達成すべき目標があることを思い出させられた。積極的に行動するという私のゴールは、元の真逆な性格からすると決して簡単なことではなかったが、一人で悩まず仲間に打ち明け、また相手の相談にも乗ることでお互いに助け合うこと、仲間を頼ることの大切さを知り、目標に向かって少しずつ進めるようになった。英語を使って是が非でも学びに繋げなければと焦りすぎず、一定数いる同じ境遇の明大生や他大の日本人学生を見つけ、些細な不安でも話してみることでいざれ自らを助けることになる。貴重な3か月を費やしても、自分を大きくジャンプアップさせることができる本当に価値のある経験だと思うので、迷っている方はぜひ参加してほしい。